

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 (03-12)

団体名	プラットフォーム淡路島	代表者名	代表 清水 昭男
事業名	プラットフォーム淡路島 快適な島くらしの絆・支え合いの仕組みをつくる事業		

<事業実施実績>

年月日 定例は「月1回」「毎○曜日」等で記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) ※講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
4月13日	洲本総合庁舎2階	1 (7)	第1回企画運営会議
5月23日	洲本総合庁舎3階	4 (5)	第2回企画運営会議・令和4年度通常総会
7月 5日	洲本総合庁舎3階	6 (4)	第3回企画運営会議
8月18日	洲本総合庁舎3階	1 (4)	第4回企画運営会議
9月28日	洲本総合庁舎2階	1 (6)	第5回企画運営会議
10月26日	洲本総合庁舎2階	1 (5)	第7回企画運営会議
11月15日	灘地区公民館3階	27 (3)	きずな・見守り・支え合い談義 in 灘 PartⅡ 講師：野崎隆一
12月 7日	洲本総合庁舎3階	1 (3)	第8回企画運営会議
12月 8日	洲本総合庁舎2階	(1)	ボランティアプラザ事業所訪問
1月23日	洲本総合庁舎3階	(5)	第9回企画運営会議
2月10日	生穂会館1階	12 (3)	しまびと交流in生穂 講師：(特非)島くらし淡路事務局長 堀内照美
2月14日	ひょうごボランティアプラザ	(1)	事業報告・交流会

<効果と成果>

- 自治会、民生・児童委員・社会福祉協議会職員等、住民と主体的に向き合う方に昨年実施した「生活実態アンケート調査」の結果と課題を伝えることができた。生活を支え、健康を保つ食生活改善のサポートを具体的に伝えることができた。しかし人口減少・高齢化により地域の絆が失われ、現状を維持できなくなりつつある地域に長く暮し、弱い立場の方・人口減少の地域にしわ寄せが来ないよう、諦めずに知恵をだして自分事として探っていこうという強い思いを引き出せた。「自らの第一歩が大事」だと。
- 移住と居住の区別はもう要らない。移住の形も様々、島内、里帰り、就業、あこがれ、療養など多様であり、老若男女で生き方、価値観も違う。それら方々が混在し、大人の良識を持って暮らしている。少子化の進む地域では来られた方に期待することが多い。場・時間を共有し、移住者の出番を作り、活躍できる見せ場があることが必要となる。地域紹介イベント、お祭り、子供の活動に参画して貰うなど交流することで絆が生まれ、地域の輪となる。その前提として話合いの場で交流・発信できた。

<今後の展望>

誰でもそうであるように自らが住む場所は「ふるさと」で、愛着があり長く住み続けたいと思う。それでも人口減少は地域のきずなや支え合う仕組みを大きく変え、立ち行かなくなりつつある。しかしそのままにしていれば、しわ寄せが弱者に向かうのは明白である。自らが行動できないとなると、企業・NPO・福祉機関にサポートを手伝ってもらわなければならない。その悲鳴にも似た声が必要で、発信されなければ届かない。それらの現状をしっかりと発信し、伝えるのが地域活動を進める私たちの役目と考えている

「移住」という言葉自身、「居住者と隔てる・特別扱いする」言葉のように聞こえる。それぞれの思いを実現するために生活空間を変えるくらいに考えると違和感も和らぐ。地域としてもお客さん扱いはせず、地域の一員として多いに参画して頂き、時間と空間を共有させる仕掛けや媒体で出番(見せ場)を作っておくことが必要である。老若男女で活動の輪も違うにしても友人を作り、顔なじみが多くなり。得意な分野で支え合うことも多くなる。多様な方がそれぞれ思いで暮らしていく地域の認め合う仕掛けを生かしたい。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	300,000
自己資金	21,379
合計	321,379

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金 (円)
直接 経費	謝金・人件費	57,400	51,000
	旅費交通費	147,310	140,000
	会場費	2,000	2,000
	その他(印刷費・消耗品等)	88,547	87,000
	小 計	295,257	280,000
間接経費(一般管理費)		26,122	20,000
合 計		321,379	300,000